

減災1000年先まで

導く

語り部を起業

東日本大震災の津波で甚大な被害を受けた陸前高田市で、
がいた。被災時の様子や復興の現状を紹介し、自身の避難所運
啓発する。「全国からの支援のお礼として、災害に備えるきつ

避難所運営を

安全確保ノウ

起業したのは、同市高田町 月までは遠野市のNPO法人
の仮設住宅で暮らす釘子明さの一員として陸前高田市で被
ん(54)。津波で全壊した高田 災地ガイドを務めていた。
町の自宅跡にプレハブ事務所 語り部の依頼はガイド時代
を建て、4月に「陸前高田被 知り合ったボランティアや
災地語り部 くぎこ屋」を開 企業関係者を通じて寄せられ
業した。 ることが多い。映像や写真も

釘子さんは震災後、高田町 使って津波襲来時やその後の
地区で唯一被災を免れた第一 様子を説明し、高田町地区を
中避難所の運営業務責任者を 中心に現地を歩く。
担った。勤務していた気仙沼 被災地を見下ろす高台では
市のホテルを退職し、昨年12 「(陸前高田市の中心部の)



学生ボランティアに被災地を案内する釘子さん(左端)
11月7日、陸前高田市

お遍路巡礼地に初の石標

福島・新地
龍昌寺

東日本大震災で被害を受け った。新妻代表は「1000
た東北地方の太平洋沿岸部 年先まで続く東北お遍路の第
に、巡礼路の整備を目指し、「一 歩になる」とあいつじた。
般社団法人東北お遍路プロジ 標柱は、宮城県丸森町で石
エクト」(仙台市、新妻香織代 材業を営む山田政博さん(60
表)は、初の巡礼地に福島県 白石市)がプロジェクトに
新地町の龍昌寺(斎藤崇淳住 賛同して提供。震災の日を忘
職)を選び、標柱を設置した。 れないようにと、被災地のい
加藤憲一郎市長ら関係者を招 わき市と丸森町の石材を使
11月6日、現地で除幕式を行 い、高さ2011ミリ、幅31
1ミに設計した。

龍昌寺には、津波にのまれ た沿岸部の釣師北畑地区の墓
石が集めて安置され、そばに 観音像が建てられている。巡
観音像が建てられている。巡 観音像の前に建てられた石標

祈る



観音像が建てられている。巡 観音像の前に建てられた石標